

事業報告書 (ホームページ公開用)

講座名	戦後80年「戦争と女性 日本軍慰安所と米軍の性暴力」パネル展とトーク
日時	パネル展：令和7年10月24日（金）～26日（日）午前10時～午後5時30分 トーク：令和7年10月25日（土）午後2時～5時
目的	戦後80年企画として開催する戦争と女性をテーマにパネル展とトーク。沖縄の日本軍慰安所と米軍の性暴力について紹介したパネルを展示し、当時の展示や調査に関わった女性たちの取り組みを聞き、いまに伝える。戦後80年が経っても戦時性暴力に脅かされ続ける沖縄の現状を考える。
対象	県民一般
講師	浦崎成子さん（金城芳子基金運営委員、新崎盛暉平和活動奨励基金運営委員）
会場	琉球新報社泉崎ビル1階
定員	30名（申込者数：21名）
参加者数	トーク37名、パネル展来場者約200人
講演内容 （概要）	戦後80年「戦争と女性 日本軍慰安所と米軍の性暴力」パネル展とトークが10月24～26日、那覇市泉崎の琉球新報社で開かれ、多くの人々が来場した。25日のトークでは、金城芳子基金や新崎盛暉平和活動奨励基金の運営委員を務める浦崎成子さんが、1990年代初頭に女性史研究者が実施した「慰安所マップ」調査の様子などを語った。日本軍慰安所については、軍の内務規定などの記録が多く残っており、慰安所の利用時間やルールなどが決められていたことを資料で紹介。91年に韓国で金学順（キムハクスン）さんが「慰安婦」だったことを初めて名乗り出て日本政府を提訴したことなどを背景に、本格的な慰安所マップの調査をすることとなった。浦崎さんは「1人の女性が提訴し、支援する韓国の人たちの真摯な姿勢に認識が変わっていった」と話した。
参加者の声	・慰安婦は過去の問題ではない基地の性暴力と繋がっている、時宜にあった良い企画 ・成子さんのお話で、女性の尊厳を奪われた辛さと悲しみ、このような歴史を風化させず、次の世代に伝えていくことの重要性を改めて考えさせられました。企画に感謝です♪ ・歴史と地域とを縦横無尽に網羅した展示内容に驚きました。しかも、一つ一つが大変読みやすくわかりやすい。日本全国で移動展として開催していただきたいと思います。（来場者アンケートより一部抜粋）
写真	  
共催	公益財団法人おきなわ女性財団